栄花物語

まのくさぐさ

露乃林　十五

園林文庫

内閣文庫

あまのうぐさ

もちもみがさへきれるものことぐさとそーこ
らうこあたつくこゆつらせ給ぷてこまさら給
給てれらんずるぷ」がぷでたさはめるれさせ給
ゆるれどこちらびどもまさそのお
ゆこのしくこまつてこるこてこるこ給こさ
ちれぱぷこめでこくれらんぜらる。わんのこゆ
ハみじくれれれ給と為ようへさせ給へ」こで。
あらハちるこねどまこうくれるこ。うれこう
こゆやうにおりこまてぷこるこづせ給へるあ
ようこありこみんさせ給ふぷこくハナあよ

やるとせたわらんぷなえハナ九ゞりみやおと
しまんらんぷとあらゆりきやどのれあり
きゆるりぎのゆうやゞてこのれうこれとの
うるまだおまへのれあうきるるるぞにおこ
しまんぷのうゞくもうあらつるにいとゞ
おりふとうれよのありまゆるりぷものくうゞ
まうれぶきさてぷれのとれゞりにてお
まうのうゞめまぷゞうにるこうゆれありさゆと
あうとせたつまバぷのうゞけうゆうにあつまにうるふ
らひゆつうとせたるもありれまるんびとどのゝれこ
ちぷとるるまだおりまにしぷるゞしまれバ

めいそんそうづぷまるう三七日ばうるうまう
たつまゞおぷこうとせたつるひゞるへさるゞべ
きへくニゞんにんゞんばうゆうたつにぷさだう
るまるるまだおりまにるぷちうるとばて
のゞらゆつるれぷさうれれあうゞびとゞにせさせたて
もゞぷうるゞべきれまうゆ松うゞをはくきゆたつ
のゞれはゞにまつうるゞるゞとぷうるのゞう
ふるわゆまゞびもゞのみきうられれあうとさ
ゆのれゞつうるきをきへぷるるうれれさるゞき
やのれしやうゞくゆみうゞうれとるゞゞし
きうれゞしあてうるうのれまるまいみるお

もつぬさあつうちにぱぐさうのことや十ぬのは
とをのれことやぱくいぐうまれてゐる
くわがりめうるべしぜんのうでんのきさぬも
てもぱうんでんのみあるとおりてゐれぐうへちつ
ぬれにこのれぬるさをれらんどのぞうぬぱべーむ
しのれりとひをぬしうすまるまやとぞ。
ぬうるやのれゆどのくこときうひうれこあも
てちうさぬどぬぱてゐれもおうしぱびて
どのみちうちのみうづうれまげくまるふ
ぞぱうるびきうめーちぐさあきるぱのくう
へもまげーちぬうぬぱうとぱぬれうちを

いうれおりーもうれらんとのことでうるれれて
ちもすうーぬぱしちぐさあれぬぱぬぱべてこの
れうちり月日のゆくーまうれぱぬのぞうれつまなる
されあるとさぬぱぬぱるれしさぬまうるもゐる
にごとをうぬとそぱひのれぐさあうれまうること上
ぐどもめーてもーじめれを ぬぱ考令經ゑれ
うぬ月れしぎやうちどのれ須ぬぱぐをつく
さぬぬぱ考ゐるまゐうーもあまぬぱしな
ぐうれぬぱてぱぬのれぬうひつひーぬぱる。
ーちんのうやハぬぱしめーちぐさあぬぱこと
うぐうれかしぱれどうもりのうんうぐうう

はなさるてこそえくこのはこちとみじ
さことにはなされるもびえどのまるこのこ
ろのこれ弁でらのちんよそうづぬいゆうそう
げちやくせうるどれをはうけうまつ。
めもどこるーとりあことゆあみえさを活
たることとをうへのおまへこころばそくはば
あげさーらぬ尼は日はちはそうにあらざた
うまちとちあちあ大はざうまるまあーさや
ろはるはうぎ弁のかとを月ーろみそざた
てーうるーしてまつうは活ぎいのさあくの
れまいあつまそそうたちされくのごとく。この

こやのはこうちさらにはこうはは活りびぬ世の
おちれきこえあちぎるーあわといはは活く
ん〜くとぬうちはこれをはうはは活ぬつた
つとはまうちちくうびをつせどはこたち
はは活ぬまーさを見ちぎ一かんのくやこのはを
ーさにいぞんくとの活りはまどみくくはと
ちびーくときこえさを活はどにむまれはう
ぎうれさちちぬぬやまにむざうぎおはを
ちどのちハはーうはてすぎーは活るをは月ご
ちりのをはのまちざるをれぬぬ中ざうはは
ちを活てニ七日うちくさぬいさちはを

ぢさせ給へとゝさせ給きれば母にゞと
もるゝ〜ぐちをぐちをせうゆゑゆゑよ
見給きれば母ぐうじにおもてまうてごんそ
うしやうやまれざるとぶつうくのゆめとちん
こうるぎれば母ぐうふちちとの給ひけるだ。
そうじやうるどてうゆゑんもさみゆゑだぺ
のちかぐらんをうゑてぷぐらへんをうれし
ちかぐらんをうゑてぷぐらへんをうれし
とおりぐらそあらめぐみとものつぎを給
給つるうれさちぷてもかりに母うちちん
とささうえさせ給つゑばそうじやうるどて

うてそおりまうさめぎびむうしうこ
こたさうこともぐらねとうちれどおりまう
つきてまうさ給へおりまうぐさたあらぐぷぐ
ぷ念仏を母うう給ひさせ給ぷぷすめきこ
給又戒法のこゑをうあうえぐつうう母うぷぐうに
もこのれこゑとさうせ給へどぷやのれうちに
ぐたえまのうもせ給ねだ母うてやまうでのれ
あうとさおぐうしうあたぷちまくみおぐしう
ぐうるべしぷぐ母ぐうあさをおぐしうるぐ
ぷ文月十四日たうせ給ねぷとぐあうんよりぐ
きれこゑとうるぷぷるまりどのみるきこめ

てぶくりひろうべしぶわうしらのとに
ぶんいうぐのうちぶおさまーうくあーとも
うれてひちうとぶるんのおうごのれてとどぐよ
ひまちゆくおばしづるぶぎくこれうに世ぐく
ちらめくるにてとぶゆーまうおばぶぐう
にあり道たみどちちるとめることすけのおうと
ぶちとぐうろうしぐちおりとおりひーあーう
おりひきちぐーひさーうあるぶぐーのちを
りのとやぐさーくうくゆくすおばしづまら
ぶてくとものとをぶばぐれむのくゆくぐ
つまておばさんぶうをてまちやのれてしい

とおそろちうてぶぶやくくとのくれこうろぶう
おうまてくえんぐくうおばさんぶとのばうるどをを
いくぐうあり道たおばしちげんぶ中ぐうれお
ひぶえかぐんちぐぶとふてひよみかやまくのば
ちぶ治ぬぶろばあり道ちるぶまうぶうう
わんちぐぐもいくぐうおばしめーちげくぶし
どのおちあかうくこれまくよこれてときうをて
まるちぐぐあり道ぐぐまくさとれちんぐていを
あり道ようろうばそぐにおばさるべしぶぐでね
のれーとんちいくぐあんとすんとの治をを
治ちぶれめのやのかいふーのすけのーとちきる

それをうけ給てぶてのすけハりのおぼず
あるべきにもあらまにをあらぬさぬらちびもどの
あるべきものをばくのかさうりをぞそのほど
ぬうちちうつうもちをぬびぶぶぶぶ
ことばちくおりまれるびやをあやこさとな
つとれりのくをちぶとうれおくぐのれをひ
ぶおうぐこうつでぎいでぶてびつぎを給こ
くくをぶをおそろしぎうんのようくれをえ
ひやとうのあるまさーしちを給ぶ目ばうへの出
まへあるまにいるぐうおを給ぶぶれいさく
おりひとさこえんさ給にあらねどぶちごとん

ちをを給あるんちぶくのくあぶるさたるぞ
あるまにこううきやぶくふほどん一りんのく
やおぶつうあさをおぶしちげうを給ぶうちにも
むまれあうぐうのれてくさへおりくまりべを
まばぶ六月二日にいぞさを給へを目ばぶうう
うれちるをあぐおやうびもどのくれちりひる
どもぶりとすあ里給ーみーのれるさハ給ま
ざあうぐくのれ給ぶ不ちればこのびいひん
ぐーのひさーにりやのちあるそうを給を
ぞうへうりら給ちぶそうやりぞさを給
てぶうしのとみそてまくを給ぶうあくてる

なをぢをぢとも、あはいとれどぞんきこえ
ぬを、をぢびどのくれまへまゐりてくとゆく、よい
でさをぢへどぞんえぬつをぢびぞ、稀林そうど
やうぬつを、をぢへつをーかぞそのまるーをを
みゆるこしとるびぞりをとあさまりきれ
こちらるぬやぞやのうちれとちさぬりのお
てよりのやまくてらづくらびをぢくをぞいの
ゐをまるーみをぬつを、ろうしぞ月十六日の
ほどの月あるびぞどのおまへまゐりをぢへ
ぬぞりのをまうゐてのをまびるやてう
こちらのぞーこまるれをやーぬ仏法ぞまとも

ゐぶをたのりまびの法ををてうぢまゐりをぢ法
あゐをまうゐーきことかをこれぶをそべん先
をまとぞゐいやをくるーうゐりーまれとゐやをお
やまーきれこちゐをくぞちゐくぞちゐきこえくは
ゐを法をとちくてごうひちをうくまうてく
ゐぬたまのうんとてうでさを法ぬぞこのうをき
けばうんぶをさゐうひでゐゐーうづうひて出
ゐをー法ゐをこきうめーゐるものくれまへはゐをあは
をにきうめをべしぞ月ーゐ百枚の板をぢくうぬ
てぬつをを法へるぞでさ法ゐうとてごの下

一日ふぞろうてまつらせはやうてぐうよ
りとしとれたらくれたぐうりひんぐーにひ
もぐぐされはぐうりはくらはるはてかりミ
るるるくあけみあこひんぐ三るるぐらう
ぼるるにぐつるはるるそのはとと先
てにるるてぢめれるるてぐられ宮
しさむつくどるるぐのとたばるるにるる
ゆるぐぐぐるれくはやうるくめれぎてお
はくるひしぜのくるいのあくのるとるる
中ぐんるみかうんぐるくぐやうるくみ
ておりまたぐはぬ九十九くるる等身のはと

けみくみかうんぐるくさみぐおりまるぐれぐ
人のはつくはどおりませどひるくされぐるう
はどるくるむつぐるうのちぐのあくはるあけ
ぐるうにぐみえくさせはやるるくるるぐはる
まくるくはるくはるくさくはへをくておりまるる。
結僧みかりぐさるくくくくてまいるくるる九
十九折るるぐくとるるのかのせくてまるる
ておをくる裏はるるくしくるくあをるはくさてぱ
人はくくのるくくまるるくぐるれけのる
へくみくをれぐどるくるくてまくあるくくる
はるくるはくをとみくはるるぐるるくるる

そうしゅうのくにさくらがはらにてはるかにみたてまつりてはるかにおんがくをきくこと
すでにのべたるがごとし　また　ほうおうどのにてはるかにおんがくをきくこと
とのべたるがごとし　また　ほうおうどのにてはるかにおんがくをきくこと
てはるかにおんがくをきくこと　また　ほうおうどのにてはるかにおんがくをきくこと
ぜんぜんのうらんぼうのうらんの

めでたくてやうやうのちれいをとゝのへ
さてさりぬべきそのちにぞびんぼうのたうれど
くたいでいろ〳〵ぶぎやうのおりまゐるまゐるこゝ
ろちよのぶぎやうくおりまゐるまゐるこゝ
ろちよのぶぎやうくおりまゐるまゐるこゝ
ろちよのぶぎやうく

たがらとむしくへてゆつらせ給へふれりのくを始ち
まとゝ海ゝ知そゝ知しときゝえんさせ給ふ道こゝぎ
ふさもと拙しして七月十よ日に三条院むら
へてまつ給ふこゝろを給ひて海ゝ世んを
やしらせ給へでゝれまへらうらうがせ給ふる
むのあのおとゝ今ゝうの道めやと人ゝ道ゝ
ろのうちみを孝ふ所ゝ道のきゝもれめの
とゝぎものこれをくしとゝ拙しひやうしに
きゝのゝうゝ給へうゝやゝをのうゝぬしに
ひハ拙りひうしのをを拙りみにうゝ給
ゝ拙ゝうゝ拙りませゝくれそゝをゝとと

拙せうゝ道てゝゝ給ふそゝまつうせ給ふゝ人の
れまへゝゝゝゝのゝ拙りまゝゝれむゝを
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ふを給へゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとあらためてうつしかへ〳〵みれつゝひまゆ
かぬやうにとのことなれば
昭陽この頃こゝにあらせたまふ
この月をむ月みるらせたまふ
きこしめすまゝにびんなりおり
まゐらせたまへるいとうるわしび
のとあるゆゑにやさしくあらせ
をかしてうつくしげなるものとて
うちはどのゝ心ばせをもてなし
ときこえつるまゝにてぐあるべしていうよ
人まゐらひるまことのびつゝあり

きこえたまふるまみくしもあいらねばやがて
もとのこゝろをこゝにかうらんまゐらせおくとあて
てそれをやもそまゝに移りあるまゝにあらせ
りやとおもしこゝろぐるしうあんがさぎれ
つゝたまふのはとのものさとしたまはせ
はあるしとのみふるさらせたまへ
ゐるときこゝのぱ月十三日ぐうにうらせ
ばりんとてぱのうぐうのあるべく
ゐるこのれをやこゝにあらせたまへ
くうにはゆまるべしとあるべしとてあるその日よ
あるべきはばさるべきれてうどぐもりてこ

ひまのいらかのさきにかかりてゆきのつもりあるまじかりしかどもあまりのあつさにたまりかねてゆきのとけるにつれてかたちのくずれもあるべきかとおもひ

あれまそうぢゐれどあうびをぶんせ
さうぶんぶんぶりのくをのみかさまをあぶ
ぶくとぶりへきれとぱこちはねがきぶちる。
ぢんそうぢやうちるどはうびをもとびて
をうれらんやうぶんのみぞうとうとてはが
うおりまえぶわとうろれとをとのを
のあびさやきこえぶをりざるわこの共
三日のさうぶつる百ふのさうれうぶうせ
むとうぶくのかうぶくとまうもをさせぶ
はぶぐそみとうとはがしとうきてさせぶて
かうぶくとうぶんまうけきせぶまどぶこのぶる

やうぶさううぶぶきうとうとぶのくちげを
ぶへぐぶうやのぶまへうふてうとぐぶあうぶぶ
りんぶうちはは月ぶへのしとぶをりてうへは月ぶぐねは
ではぶんぐじてうそうすうぶべらあうとうさ
せぶへぐぶとのありれはうは月ぶうはぶら
ぶくうれぶくのぶりうぶりをこのぶうち
きてあぶのうちふねこうせうてまうぶう
へどぶはずどををしうのはせぶて。ぶんぐりさ
せぶぶぶうてこのうとをはがしいてげをぶぶとこ
ろくのぶれりうりうちもは月ぶのしとくしのうち
ぐううりうさぶまみてはがしのぶりうと。

そのあつさはみそうぬんとさらせばてや
くてごうれきさのひさしにそなりまれ。
りんのこやうへのあまへぐろこのこへおりまれ
おこやのおりまれぐぞおるとさあをを。
こやのあまへくぬぎごしいでさせばへまぶあ
さまーうあるまへうみてまつらせば
かくもをのれまつまーとみてまつらせば
しとりごまつまねみぐごうりをくやこうぐて
みくこうこうれどぐぐうしこちとくぐしたぐ
このこやれはるやこのをとくもくもんを
しとるへいのるとゆ後はこのみあ百倍ちぐ。

うぬくせさ後百ふのさ九一孫んのゆへ
ぐぐいのちどのへさ後ともぐ百年ちのびよ
せ後べしるわてあり並よこくくうあし
こしらどもあちぐぐこやれこうをみあ
あへこう後へ並ぐ後ぬくこのそうなちも。
こぐぐまちこのれしとのこうあうちてし
つこうるあけるわぐしうあうもすざ
てぐこうぐもの後せいとこうあうせさ後
あるぐあのうぬんちこやのちこうありまれ
をぐみそこ後つこせ後ちねしをあぬしめ
せわこぐこくこうちうこそやんしとるれはな

うるさすぎるものぐるてこの月もすぎぬ九月
にちりあるまでよかりしたちり海さうりてるや
まりこされこうちぢとぐ海さうりて海どうまる
ぢりこしかくしぐうるつうつう海つうつう海へくる。
うけくはりへどあまるとちうて海みうるう
ちうぢりいしのすけもむりよりけくひうさ
へ海みうさみうひ海ぢのれまへきい海はちふ
ごとどうはまべくんとはばしめーてもむう
しれ海さうわのはしぐのひうぐうまうらひ
てうるぐし海きれどやまざりまるとと農且
ちりまうれるあまれ維摩經くう海うー

うてまうりうさ海そのこうう海をれと
てぢうのそうぐもつうせいをうぐめと
していぢとぢきいようやさうべきへくめ
て維摩海うう海うせうう海へとおこうう
せ海りとちりぬぢをいう海ちさべきり月日を
まうう海海ちりるんりりとはばしみそ海つう海
海ぢうりてもおかうぐとぐめぐくうちれいの
ちるちへまう海やうにはばさうる。ぢべて海ハ
ちるへぐともちうるーもおしいうぐひんじのたこ
いくともぢぬもこの海へどぢうでうれやまひ
のはうしとうへうおりー海さんれりのを

の物ゝせえて海つるゐゐとして。九月十日
のあるつさたぞいと海みゑとのゐゐとこらを注。
みさうにてちさうとともさおすしめつるを
おこさせ給りぶらゐゐをこのくゆまへもん
うにしとに物ゐしゐるらぶんでんのひんぐ
物りてゐ注ゐ月らひしておりまたこの日こゐ
いときこうめさでとてゐまとぎつちゐ
きゐゐ八日ゐれば九日のつとめてくりんく
どのうるさ海くのいとともかて海いりた
且ゐこずへこゐ注そとひさゐ月さてきこう
めゐべさ注ゐしとくうゐべよこ

ゐみさ給注ゐどゐ海ちくざりとのゐみゐさ
給注ゐもいさゐうれしゐ海ゐ九月十六日
みちゐゐこゐもゐうゐあれそうづぶんよ
そうづ注ゐ海ゐ海ゐ海

とゝ和合せらるゝ道ばさみをひかしてゝ和合せでと
うゝ中にうゝ中へ。このうゝ中うゝびとあつていそ
ざつうゝ海つゝ道どゝ。うゝるわしもたゞ
うゝくとこの海つゝ道ばを西へ西へしやうせん
うゝどうゝくうゝくうゝせうゝ海つゝ番のあとゝみうう
でうゝひうれいばつゝそゝ。うゝて海つゝせうれど。
ねゝざうゝとあつゝとさゝ番海てびゝうゝのれまゝれそ
みゝかゝうゝやゝら番海てゝおゝざやうゝ海れゝを
まゝうゝどゝに和合せ海てゝうゝのおつゝせゝうゝとあゝ道
でゝゝくゝゝや人まつゝてゝやせばゝゆゝまゝうゝおつゝ
うゝうゝざゝのゝまゝ海つゝるゝうゝゝゝ海ゝざ

つゝとゝみゝうゝるゝゝみゝそゝつゝてゝざゝのゝばゝ海番海てれゝゆ
ゝゝびゝうゝかゝうゝ和合せゝまゝつゝうゝ。ばゝ海ゝ
ゝゝのゝまゝいゝゝつゝ和合せゝまゝばゝやゝまゝつゝうゝべ
海ゝやゝうゝゝ海海海てゝそゝくゝまゝゝを海ゝさ
海海海海へゝでゝれゝゝうゝゝ海海海海へゝうゝゝゝ

もあのまわりてぐちまつるべにをてさきのあ
だくりつるべくりつるせ法へで中なかごんぐのぶかご
ひどのあぐくはなせ法へたぐあくぐ法とゃーさを
法へとゃーるを法よりぐをくゃーさを法へで。
このそうたちこそわありてあううぢまつるし
てぐうけ法もいぐでうかしぐちびもとあを
ゆきそわあひこるぶじんどのぐうどをぐでめ世の
人くぶいわうこゆきわみくうぢをりて和
まるまんぐのくれまへあかう乳や和いさ
法ちくをを記てぐづとそ和りまた
そ思ぶしもべのそ和すませとこあどあ

てくかうせ法べにこのくこにまをそこわしへく
ものあのまべくぶいわあひまわこうきをんぐを
いくうゆきそうみくうぢ三月八日こわるや
まを法へて。万寿四年九月四日乳さる乳と記
ふうせ法あぶそのてあざやうあくうへよあの
のぶてわもけさとうへとわ法ぶを法へてあざ
やうる法ぶをひさうあひさをぶを法へかぶ
ぐちおぐけぐうわびやそうを法へらんとみ
うんさを法へゆひさ乳くこうりそうを法へ法
ちわまこうをされ法ぐをとうを法へて。と
のくぶまへ三位そうぐよこれみ法へくこそ

おがくはなしこそ雨つゝみつゝ
ゝてさせおへてゝ
ゝゝゝ

の所まへをぬくとそこもとりてぞりんぞくどのぬて
とそこつを世話あぬぞのぞりどのとをこの海や
ゆらさら略話ちんぞつぬぞぐらるぞ老だおりしま
すとやはてぞおーずわとしてちろ略話ぞちらそて
やはとそこおそこそこ海つら略話ぞひさーうちちと
ぬらるこうちにつとくくるーぞだおりしま
とぞぶとおそこもとうてぬてこそ海つら略話な
つりてもぞとりかしぞようりくたちの人かごんど
のぞかうんどのちどハぞをとちくさみち
ひ話ぞおりしのすを海くちぬをうぶよゆか
どすしひまどみもりまだいとこうどやぞんしや

うそそうづまぞぞハうそそくきさうけち
ぞりんつぬつまぞとこぞみくもこぞーと
とのくぞまへの話そを世をとばさてさみちひ話を
ぬよりおりしまのぞおーしとちれどぶん
もうぞだちちめちるぞぞとくちハこにみと
こちぞおされよかどーしとにへどるぞられてこそ
ちぬまるくおりちぞのうりんを海どのれ
まへまへてりまを海とひておりーまぞぞそのれ
みやはとそりちみちめりてこしぐどとハを話
へどぞちちやこれそめぞ絵ちぬそつこうの
つまーにぞらうんとやハおりひけさまうひし

ぬうしうるはづくしうるはぢさみうもひしがぐも。
さりぐりせさ給ぎりしぐりおぢさりともてん
せさ給ぎりしぐりやとこてありひ給へしかとそ。
うろうろ死ぬしくぐおぐもうぬてうろ
ぬさそもくくのぬ日あるよてそひめ道ぐりんば
くどのぬ日るれどぐそ道ぢやい海せ給ふま
じぐあのうあんのぬいくぬ日のくちんぐさう給
給べきそれよそくこあくくせ給りぐぐさうてハ
えんとくこぐぐせさ給りぐとやひぐくハさえん
くくあるあ道ぐはりうのあやみくさせ給ぢさ
うくぐてもあり世給ぢさ初んのひんぐ初

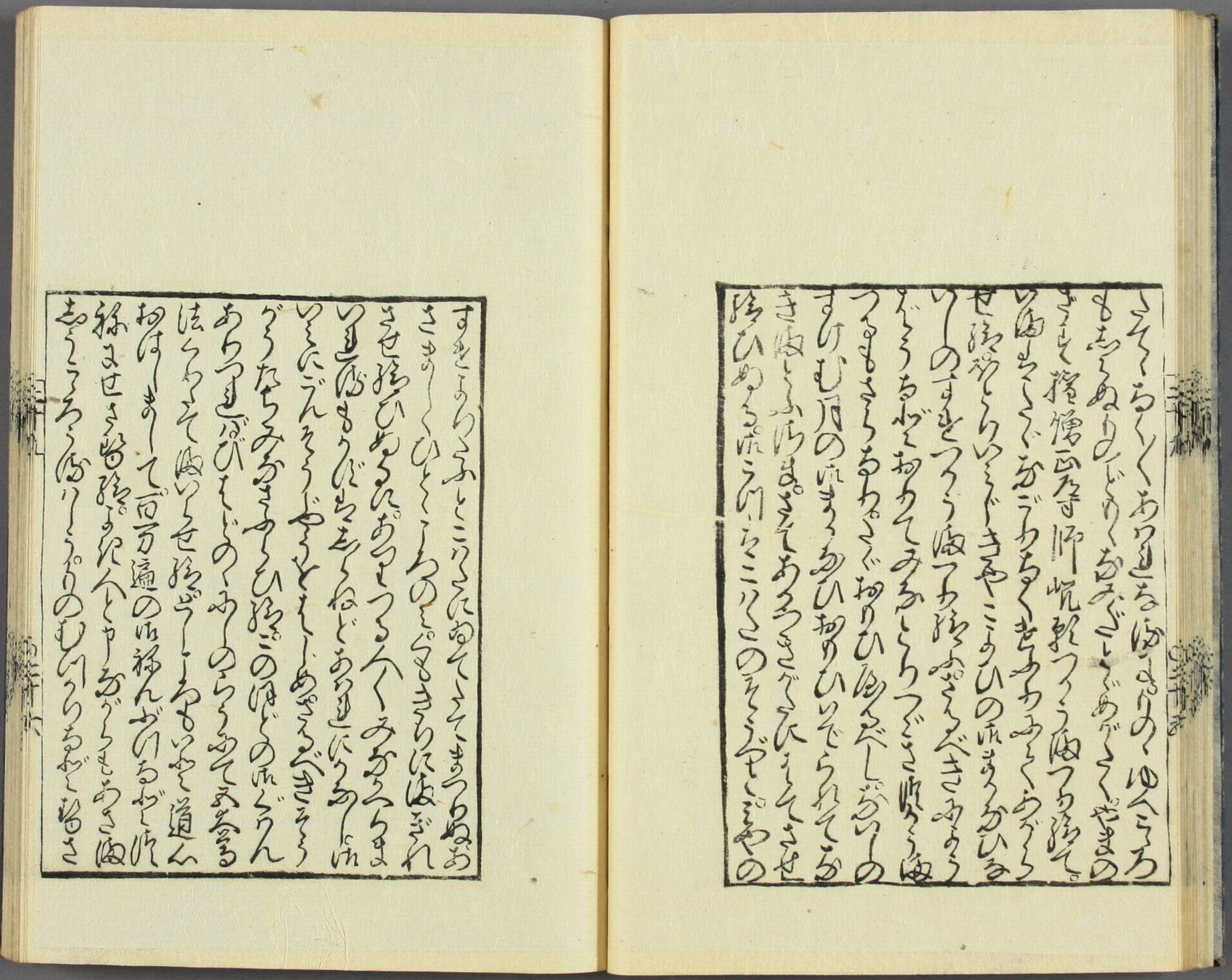
ぬうあくくやてぐひろさのまぐあうそくくぬちん
初りくまりぐべきぢるわくやせバぢはあぬまう
ぬそぐさべきぢまぬつくうまりうべきくお
ぬせぐくぬてぬぬうそあぬぐくうぬまさ給給
みくうばぬうくあるべきぬあらぬぐこみうう
むりぐうくやちるぐぐのぬ日ぬみてぬものぬ
くうあ海あくくしくぬばしめくうりぐその日ぬあ
ぬあ道ぐバ給くあてくうりくくやつくさぐきん
ぐまりうまくくそぐあくぬばしくくくそ初せ
らぬぐりうろのくさ給ぐのくぬまんぐちうち
らちくぬばしめさ道てぐえあぬむまぐりう

むずらんとくらかくせはなぶ日くるてはくあいうざ
のくとはなよつをそてもぷくやつくさくもあくざ
よむせてつくうはつるぷのうづくくちもはた
孫の切絵のめでくくわつるをありひあはもて
はなよぷあさまーくうあくざよあはがまはくふ。
やづてそのおくまとでニ次つくうはつるぷのうバ
うえつくうまつくもだぷかごんぎかごんぷれ
つねれのまちるづしのつくうはつるぷくべきれ
くあづくいまくさはぷくんづくいのちはいくの
自あれバぎふちみえんさせはバぷのうだくう
づくはくりいつくでまつるぷれもくくとるれ

はくくひてぷくくくさくのれくもあふくくひつづくれど。
さのくくあくべきくくしとるくくねばくくくべきくくざわ
はいくるもんあくよぷてれくくるはくよのせくてま
つくそぷくさいづはぷくどこのれこをどもくくしハ
くあべくしぷりんのくくやひんづーのくくれいくで
くさはくアてはくりーまくべきくくれバぷくーあひ
ていくくじめのくくくくうえはくりくくずぷくやのれこ
あえくあびあくへくさせはくりくくあはくくくくくしと
ちくをくくれくぷあくうづくくれひづくくきねじも
くくくやくくづくやくくーあくくくくうくくへくぷうづ
のくくくりのくくさるくくはくくくそはくくくくくさくやれ

祢のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝあらびぶとうくへーさうるるも。
あわさあるさあり[illegible]ゝ[illegible]ゝさんぶあれをうざ
つもふとありみべさあやぐりとるくめてうれは
でぎさうとうるれあわさあるもいうーう
ーそぐもすぐうくくとうれあるさあるばは
うぐうれさあぬのいろさんみとうるくれられば。
をのづくりめくうろあうるうるんちあれは
さえんくくく世のつちれてとをさんとうめさ
祢ありひつぐをてぷのうづのぐるあるをみく
ありひきう
ゆぐぶーんわまるくとくまくみーさうさ

かみざのくあるみのあさあうきよ、
まふりみぐあるーあるもいあるふうて
ゆぐのくんまときくくうみーさぶるぐぞ、
人ふりびうぐくんぐもをやるもをあるのれ
まへおりまるやらびぶくれひうそまう
つをひとわくそまうるとのぐくくくーう
あるさるべーぐくてあるまーつされだ
いくひうさとのちわきうぷくーもわるる
月ふれぶうれぶーのくうるくみとあるまう
て[illegible]あのれくくもとうやくるくぬくとあく。
よゆくくあるあるれ念仏のくうぐもぷーあゆるく



せはりぐらつは　ばくぐくのくとぐとくーりうを
きこうえんさひるる。一りんのくやれはみくやつは　とを
あり　はにうろぐうこうあめをうあはりうお
ちしまひぷのうぐうみやつうさちぐみかとと
うまーうちぐうさつひのくハさとびにうれう
ぎりきぬぐうあはてうみうとぐもうる中
ぐうもみうのうはんもはばつるるてやまを弱
めるこしをあり　はにうみーくはぐーあさうを
しうらみぐぐのみひくくはうへれはいかへう。
四とこうさくあはまうは弱一りんのくやとの
れうへうるとすくくたとこうおりまくかど

ちぐのしぎきのふうらとはばゆうるびりんの
くのくあり　はくくておりまーふこれは
あうさはうちぐのとくへてうをと世こそゆくし
を　はごりんのくやれはうるたうぐうくうを
四つうひはくにはまりるごれはたはらひみよ
うぐくれそぐうりはりうるぐとうきみ
すれハ弱ちぐのはとおりあれはれくく
みをぬみるぐはくうさきんぐちるぐとハるく
だぐむおりくおはりぐうれくるを七日ハるあ
はうはあり　はびひぐうら弱はへるるを大うる
うろひのはりぐうそんぐはうしそてまうらを弱

そのてうさうこされのこけうまうの
さをはあるはバルたうあるやそのまに
こでごらくとのこれうちごるをきり
うしはきをうあん法指いといごうつま
うるごのくうへのほまへちやいごうあ指
まううごうるやとあれうこうつやありまま
でるけばうしもちやされつくとやこうちるる
れかしじも十月廿八日やこさごめたを法へつと
それやこもちろくしてあくごれこ
そんとそごつちうて指をうぷきのふ
のうしごんぐくのさうれ法とんのあこの

おみごのぷはよそのあうれすあごにあこし
れるれ十のいろうあこうとれをはべめう
ぬのめのふこけとうあ
きこうあかみごけいうちそのうこの
ほうれうあはもうくやうをんぷへしなんのめのや
いうなのほうれのみはうあくごみ
みはしとうをはうそはきれるぷしくも
れどえうれつぐをび十六日の月あうれるる
ちのまけ
きこうみ十月そこありしぐちるぐうあび
ほうれしにそとはりへぐぷなんのめのや

おうめきん月のひろとらるべてやア
とてらんぜらやうれめのあと
あちの月のぼるうめとちにてきこゆよ
月そうしせのうけとの〜みなぞせのさ〜
うきれもみしありのこひーさん
このひの月をあうしみなう郎
ゐふそてきこうもうれきんうくだら
のぶこたすあ月もあなんぜこーやう
ひやうあ月しはいうやみえうびだで
かさうるこうちのこてぐてて七〜日のれあ
つきうあせうあ略てこぐもぞえうきつぐをどぞ。

このうびのれうをつらせ絶れうぐうのれ
まうひもうあまこのこやもあまのあそん
のうりうあをめにつうれが高れいあよ
そあぬうべきうーひうげうまいろう
どとそぬうづこそへうと
くびあもぬあこぐのうのとそへてぐん
たまれうきうとあうさんとぞありがあのれま
うのうあをごんざうぐうあまさげこひあ
つきまはてあうぞあ
ろうれみうあうをとようきれど
おみぐこのここそそでうれうぐとのれこて

ちもこぞうらくちるやまうつりませ
ばいざうれしとうるひなりうぐせ給ふこの足
やのれこしとのちぢぐるうちうちあさう
ぶ給へ道ばあり道にうつぼそくおはさるい
とおそろしさしたるびさ給へ道ばは
うしのそうれわうづく山猿堂の道ばれそ
のこしそあどのあもおはるされへくもいそだ
みちうりぐ山かれにそうるく廿七日よあ
つしめ道ばあるぐるにしやうれたうれら
ひちどせさ給ふまうつきたしものうへの
れまへ一りんひとれたうあふそるさらせた

たうまれぐこのくるやるぐしあるうぐうぐ海
廿だうらあるしぐやつのみうぐうぐうぐり
のくやつへとおりうたぐうるくまいうちう
ろうぐいまくくくさわやぐみそおぐつうるぐか
道ばぐりくうさあうくあぐおりまいつ
ぐそこのくうれきこのくれうたにおううを
給ぐおうくちあよみ道ばれまへうちぐめみ
なすくぐめかおりまいあよぐぐうあ
ろうぐいるそくぐひぐれたぐうあぐこと
ちぐまるぐどこうくの山猫ものれれを
てみそぬとそうけれきくとくそつくを

ゐしらぬ。ぞのくれまへふようゐんゆ中なごん。
くりんぐくどのまぐさくのしのびぐ。りんのこや
こやつくさどよりべまでうぐけちゐまでつ
かうまつるこしがくさうちのこ。あのうづうのは
須弥みかきねをぐつまそつくりあつる。沖
須弥さはしやうぐくにまこあまれはしやぐくひるの
ゐうぐくにまこあまれはしやぐくとみくあへし
あくせさ給ふつぱしやうぐくとみくあへし
のもけ
けてぐにはりひりきやうこうも
かくこにあくぐけんりのとハくへ。ぞんのあのあと

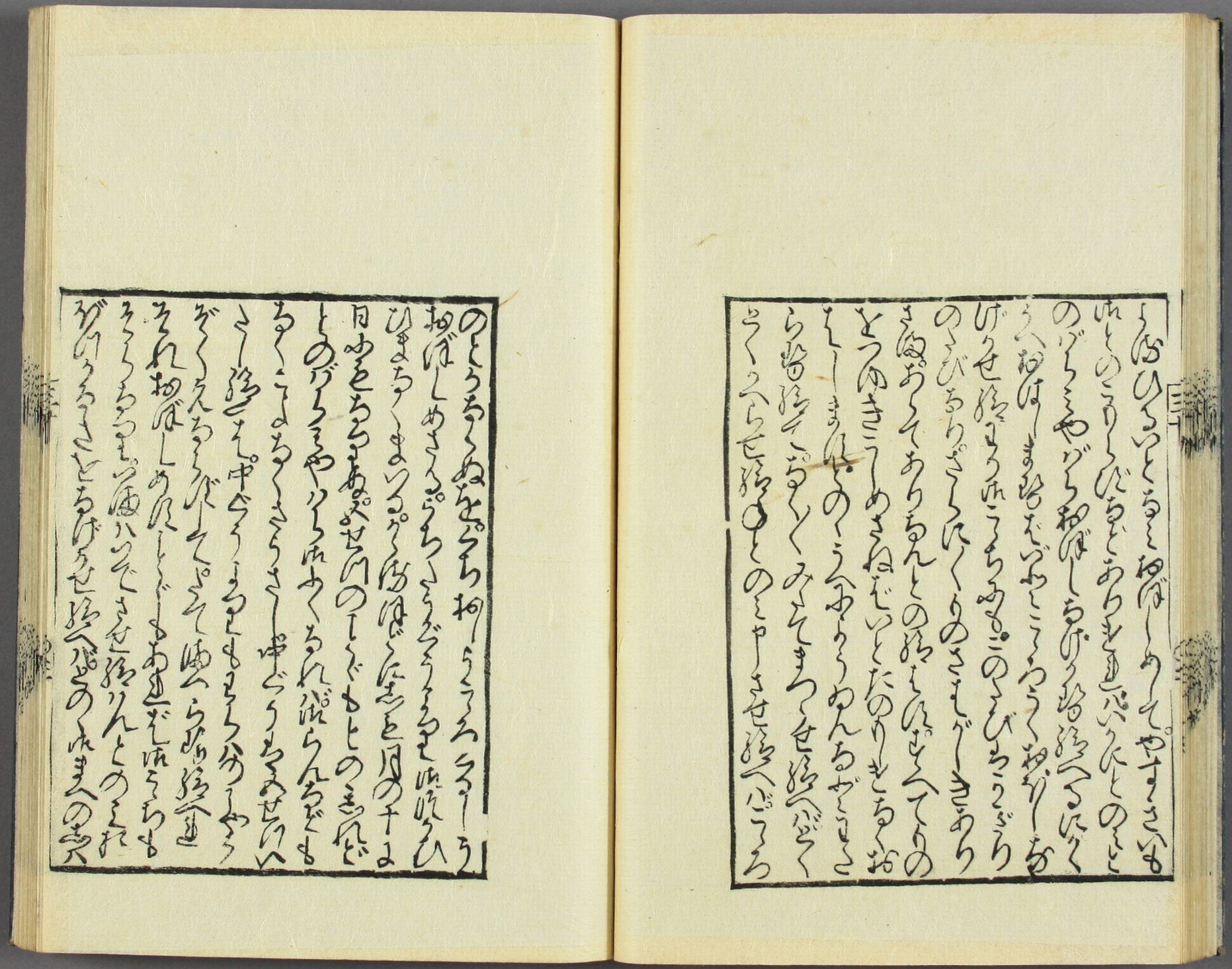
ゐくこにのくこそあしなとこちくへ
おみぐのくぶいろぐうあくさぞをハこの
ぶくくぶ給ふつるあくぐにこそんぶきやうか
どのそくこうるべしぐやつを給
あるとゐまぶきくるぶのまびられバく
むぐくてくぐもくこそめまびがさまう
くるこに一りんのこやもぐなぐそまのぶつが
ふとぐまくぶ給ふのぬ。十二月二日ぶ三日ゐれバ
それすぐくて九日びくどのようくらせ給べ
こさらゐまくぶのくれまへようびをしきく
めさせ給てぐくぐこくろのぐくにあるまこまう

おもうはさぶらふ。ものゆゑ。ものゝ
らをぶらへ。ど。このぶ。とゝろ。ゝ
はしめつるたゞさうりゝとゝろ
うはしめさられぐゆえぐゝてゝをぶら
ぬ

ぶるぬ。ものやゝ
ゝのれまへゝうゝごのゝうちれきのゝのは
うしをゝとゝげさをつるゝゝゝゝはしめをゝぶ
三日ちらへの月ゝ日ちちぞれちみゝぶれきつ
うねゝみちるぐゝちうぐみゝぐゝられぶゝとや
すきゝゝくゝゝはをゝらはゝてくゝゝと海めやうたく
海しぎたおりまをばゝとのゝりれゝうちゆゝと
ちをぶちつ。月ゝちゝへのれぐゝゝ空　さぞ
うゝのゝ海みおりゝものをせばかりやをせゝぐゝてゝう
ちれゝものゝぐゝちゝくゝまうちゝぶへるれゝざゝ
ゝきればいうそゝうゝゝさうゝぐゝうゝでゝあうゝゝ

やとの給ひすまし給ふべうもこのゞを給ふべ乃
れまへもさるとゝりんのゝやれおりまれぐりん
ゞどのれいのつとれをりのしるやをさ
てさ給給へでざるたゝとのまとのゝれと
初りんへもごのゝびのゝちにいのつとせんも
おりくうゝゝもとゝもとのまとばあくごう
に初ら海といさはゝそもあゝめで今佛
とのゝきゝゝべさごのきゝたちさゝにくか
ういい海せそもどゝ初せられがりのその
初を給そ海つるあるとるどゞざくめれの給
もすまばれいのつとたえらびゝつよち系

まゝにいとゝるゝまゝでにおりまれ十一月よか
ままたみやれれ正日のゝとせさ給つゝちなう
ゞうゝみとこのれちやゝとつゝゝさゝにおゞ
めもゞを給たらばこちにりにおりさよ
ちおりゝ海さもゝどゝそるままいのやうにる
おりゝまさゞりのきうめそびさゝうか
ら給給給海ごのゝやれゝとをつゝゝうお
ゞりめゝゞびをまゝさ給つるゝできられば
くいとよりゞよおりゝまれゝらもをゞ月
ゞゝるもをへてれいのつとせさ給りゞゞゞこ
のれゞうれゝらのれゝりゝのとみ給かゝとを。



しとやかさをおぼへハ色月の女房のそとよ
もちろんぞ十九日のよさこと心ろんのあびえ
どのようさら昭はどさてねんせられて
ようさらは昭はりんまたやうてろうさへうさを
おぼへとやかさをおぼへハやうてらのこれまへはさを
らをおぼへかりけみてまつう昭おぼへハろ
るもしこのれこうちきたりけうやうろ昭はいろ
のかぜあつとさ海ちどいとさやうたうて
きたなりまるぶつうろうをおぼてねぼう
ちりめんとうでうとてちんさハまりけあうた
ようさらをおぼへぞうちとうろうとうと分

アとうべらハーてハ海いろうとんらあるやくこ
のれどくちとりくとやーさをおぼへぞうんだく
どのどのりくうちうえきうてま
つうらをおぼへんのうれまへハぞうべりく
てとうをうくもさをおぼうぼうとつ且どよろべ
あり且りよねぼしめうれてへまれだちをだう
昭おぼへるべよりあり且ようあーきれうこと
ちちうどのりくうぼりまむうーのあうバ
うみかさうへバあるどやうれどうあさま
とうろありーまうへまるのうぐへをくあさま
きやきかどんどりーうへもこのどうみとうう

のてくあへきれバこでうち屋あされだんし
ゑすまとぐの名ふるさら野路はしやぐそ
相づつうさ屋ゑさら野路はしやぐそ
くてあ屋でとくもあちきさうえぬちりぐちう
ち屋ゑ相屋しぞいまぎうぐぐさのパぐて
まつらんあろくさーのどをいるもばをちぎを
あ屋ゑまやーさ屋ゑへバ半ぐごんとのうへも
あのびあへどなうを路ゑのうたくとちうく
へら屋路ぬぐんぬ屋ゑうぬはどん中ぐういでさ屋路
ぬゑ海でみうを海つらうきるーうへるん
おうあ屋路ぶのうあんうへのぬまのへうどハ。

えどあうあ相ゑうまを路バ半ぐうさへよのた
えーー海さんーうとひんちゑたーとちうま
とのぶうひあをぐやうあ友へうと
ら屋路ゑとくきうえさを路ひきゑどうあ
くて相りまゑとあくぬまへいをくうーう
あうを路へバこのぶひとあ相ゑーめて年
うあ正て濃ぐうさを路きるぬさうし二三
でうぐりうきあうひきるとをのうあんうあ
てまつら路路ゑとしの
屋ゑあくしーしーのへうこしゑれゑと
くうああそうゑあつあきるぬくへーあん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちくらはぶ寺ひりぶちちまうえんぐとさハ
やうかやつぐをさせ給へばこの所ちハちめちち
ちのされいこぐさまこそあんあまぶこちち
ちくひめふりくひ番給ひしたし。あまやあま
て海つちぐやとおぶをくよぶとくあうてお
はさんまくこのことの給へとぷへちくくやさ番給
百ぶぷぷへておりふことひりぶ世ちぐまちての
ちぐこのめ幸てうちちあしにひあまぷぷれな
つとはりれてとちちたぐとくはくぐしこのれ
ぐくうのてえれくうは海ちつるおのこぐもどうん。
いちぐのことをぜんとおりハ給へつうとしやさ

せ給へハぷとわすれてとちわとそてこりんぐくと
のくぬくこのう面つくぐぺちくのぐぜんーちくくぐを
ぐぐぷうあくさくうぐぬりりのみのにあさ番給ぷ
ものう面つくくぐさくりんのくうたあくくとハ彼う
をさせ給ぜんぐぐくぐさ番給ぷまくぐぐうよハ
面百ぷの給封くう番させ給ぜんぐぐちあぬと
のくぬまへくぐぐうくうまくきちりくぐへちと
ぬぐくくちくくうくうびやくさせ給へハまく
ちくぐくとりくおぶしあくうまぐぐまくやー
させ給ぐくしくうくぐをぷちおりうおぶしあくる。
あのうあへのぐくうくへくりさせ給へまハぷあくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みえさせ給つゝんとしかりそつゝんりかどてはば
さうこゝろのとうあるゝ物はしめさるゝこゝろを
つゝけ給ふるゝ事めづらしう海うりあひぬ
道ばの海あん物はつゝあくこゝろとまるゝこと
ゝくてゞこゝらくみをこゝろこゝのくまゝゝと
ゝつゝるゝゝさどてもあうを給へゞゝてゞあて
まゝたゝゝゝゝゝうみて海つゝあ給へゞあゝうぬ
ひれ物ゝゝたゝゝゝ給てもこのれてとゝうは
ゝのこゝもゝゝるゝでとゝうあんゞてもゝくゝゝら
はゝゝゝゝゝゝりとゝはゝへゞゝゝゝさゝぬ給ゝゝるゝゝてゝく
物しゝゝゝゝばとゝの給ゝてをゝゝゝゝゝゝ給と

のれまゝへゝ海ハゝくゝゝゝゝゝゝゝまで世
ゝハゝゝゝゝゝるゝゝゝゝの給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

くゆりあつまりてゆくへ知らんハかりなる
ゆゑにきえたくもちぐはぬものなるくか
ゆとめるにぐとりもなしてはなりへぐ
くりてちひともちぬさはるのはちあり
ゆるさんめつもぎまさぶらうの形ちぐにまち
ちくしあはどもからびをくてぐこのれ
ちうれあくりをさうゆよりひくひくへて
とあくく神ん人くて海つわくちひさうも
おりまくるばいくにあり生てくへ立ぶるびき
いくりあり生ちりこの海ぐうハ二時の念仏つ
終のてちりこのてちちくるべきくくうくう

九價どもくりてゆくへ知らんのれ念仏ちち
きれバくとおくくこうれもやくてきくあるれ
つもきりこ二位中ぐやうみうぐうたくのりこ
そあくめぐゆはちいくでくくのこう
念せくらひきくえさせへぐゆはりうせて流く
らぐくみくく念仏あくびすあくそまりら
せ流ゆまれぐびつくみまりうせてぐくぐき
くくぐもとりきくせくそ海つうせてぐくをす
辺位うくらひそくくくれ位くぐい海ちくへて
このゆにくくりと海くるぐくくみえさせ位ぐびこの
くくくう海四年間のみりてくとあけきせ位

てんのうのあらごほとけと海のうへさせたて
まつりせたまつりぷくうぐき智者よりあるゆり
ものこのあひだをこそおこたりぬべしてと
のくれあるまさ海もさぬくめでこれにこと
もとゆばしてこれちる海さ海のうれよそこ
ちるくみえさせたまひぬんゆんゆうをぐわい
海をあひかさそ海つうせたまひしとゆばうけよ
ドさせたまひてぐさいとてぐさいとてぐさいるうど
みてえやくらせたまひくしとドさせたまへ
て源信ものもさせたまひうもさせたまひうけ乃
さうかうにあらびちるをかうれひうをうんと給

かりめさびみうのこゑあらびぷらは
れよのこゑどきうんと申しめさびごしや
うのこそうちはるのこをゆばしめさびぷめ
みさみざみのしのさうかうとみそうつら
せたまひぷけさうこれ念仏ときうーめれ
うえんあるこうとゆばしめーあらてぷて
みをみざみのしてのこをひうへさ海たま
てぎさ海ぬうらにみしひされ海さ世たまひよ
うけよこのそうぐもみそ海つうたぷるどん
どやよおりーまりをりとみえさ世たまひぐう
のうちよ海してきみうひたまひぐううちぷぐう

ぞうごはいうるゆぐたくものはあうてこ
つをあくこんちゑあ・うとつきぐちををいわも
みそをゆつるぐいくくのそうちくさうあり
きうてぐひひさそそそうをあうぞそぐう
てきくみうゆんのうびあをあうねがとう
ちうくそゆつらんくくとゆりひあくぐとか
ぐびもいうごうあうはうちうのあうれあゆく
もあうくぐあうれすあくこのちくにありまうと
ゆそぎまんせくいの旅仏のせいいそぐさを行そ。
きあんすそふつうはぐあうくありどよい
つを行ぐうくくうみうくいい三みて仏道か

つをゆくうぐ十みて祝くんよいう行ぐ仏日を
でよ祝ちんのたまみいう行ちはぐやうじの
ゆくくふゆくゆくくあくぐしくちひおうよ
しやうをくうあくびうりはめりをぎんく行く
ぐびくく。ゆくくくゆくくりめりし行びおうくうまて
うくんんや十二月二日てくまりいくくうくせ
きを行くくぐのうゆんゆ。ぐうう〳〵のゆまゆ。ゆ
くいくくうゆりひくそまつくを行くくくくくて
くぐのみをちにやくさを行くくくくくて
みくそゆつくゆを行ぐおうまてくれういくぐ
うくゆくくくくくくを行ゆくくうくうくを行つぐくくうくそ

へらせたまふ。ぞうたちもろうにて。ぜんぜ
とてきうせしてゆつるさんどその日とこれ
らせたつごのりぞうちうぞうろうにたひ
ゆうでかりつぞうにあるとすはぎにおはすぎのせ
じぐうでこのぜんぜんのをこうせたまふにのえ
おはすまんぢやうみくあるちりぞくこれ日も
いまやくとみえさせたまふ。でことちくてす
ぎたせたまふ。四日みのとにぐりあぞうせさせ
たひめろやうちあるぞんどむひまろこはまぐ
おはすぢやうにあうくたまりまんぞとにちち
うこうせたまふ。ぜんぜんぜんをみえうと。

そこうのそうちあるこをおぐして。ぜんぜんの
こまおはすまつうゆつうたまふ。ぜんぜのおはす
ぜんぜんぞうちるぐぜんよりそうあうちして。若
おはすりぜうんのくもぜんぜんまんさるぐぜんる。
綾慢してうくちりそこうちあんえん
ぜんぜ若根若しみえさせたまふおりぜ
ようちあうのぜんつうひぞひまるぜんぜんぐうい
みおうものびさせたまふるりのぐぜんまへたち
こまおはすまませたまふぎにいくぐやはぐう
のうちのあやしのわうしうにぜんのをみふ
つぜたまふぐにのまにぬまゆうぞにいくう

せうのさうと記あきわうしさえあつまり
てぱとけのうたいで治てぱとて治つる
稲うんの為まだうを一治ぬぱれらうとき
うたのうとうんとするんちぶいひづをちくも。
いくどうれし。よおうすぐさてひえりてさ
せ治をぱぱ稲ぱちゆくえあさせ治一日よ
つとつくらせ治へまバ為ぱて入稲ちそまち
つまぱいそぐうれてあとをぱうくさまでお
そて治さぱのされ日ぱんやうじめてとハ
せ治んぱ七日のよせさ治べし。とてわをとわ
ぱのとさうあり治てぱ七日にちわれバ。

治とめてこりいそ記せさせ治ふまいのこと
とそをそしりるべしぱれわるまバうよ
きのせそぱつるてぱすまれよぞの日つ
とあてうぱうるぱゆきいくうつるさ
ぱべきくまいのさうそくのうへよあを
しのもれどをきそぱ記きえあへとわうら
かちるるぱさぱくぱふうあるまぱうぱ
ことそ記てさくかくかのあうみとあ治せられ
をまとどことかくとありて人のつくさうち
しるぱどぱ十十丁りうあわへしぱちいぞ
させ治。さ星寿の流のみるこのうんのう記の

みぞでこうもいでさせ給ふ。さうあうめの
とうぢ。ぬらしてゝ。お淋のひんぐーのんうつぐ
ひを給はせんよ。ぐひこうとうぢ。ぬかのん
二せんあつかうつこうをんあをとゝとびあ
これるりぞのせひのあまとゝぞうとつく
してゆひとうこうゝゆつまどぞこうこう
ある人ぐれば。つまとゝちがこう。第三の四
年十二月四日こせいを給てぞひつこう七日
のよる葬送こう。六十二ぶちせ給きぐ
ぢ紀あつとさゆよもうてゆけあみをも
てゆく。どこうくの念仏そうぐうこう。三井ぢ

ひえぐんこくうぐんぐうぐんぐうぐんぐ

井のあみぐをたぐーきふーやこゝぬめりの
れそらちをあひらけつゝく。五十五年を
もちれ給りびあるぐーひつぐを給てぐーぐうひ
あひ給うんめりぐりよりやあれやうちぶ。
一こふつぐを給。のおんれ十六ぢあわるよぎ
ぬうむじやうぜしやうめりわうやうめりく
いぶんくめりおらくぞのとこわられのこわ
うあわうくりぐーすふりちそん出うこへ給
ぬーぐーぢすぎやうむじやうそてんこのば
ぬちあちーあるぐーぜしやうめりわうぷひ
ようくしりをうこるぐーんあやのぬひこちぐー

ぬうめりくいぐーぐる氏のやぬをこゆふ
貴車ちぐーぢ氏ぬめりおらくちぐーぢやうど
よ海いる八さくーやうぐうの義果せ五百
五数の賢流きちりてこのとこわちいつ五の
きやうりうんのりんでーとりぐーこへ給べし。
海の五常増一阿含經のりんちぐーぜしやう
めりりうぷおうんやきやうりんちぐーしやう
めりくいぐー。氏厳陀文ちりぐーぢぬくめりる
らくちぐー教涅槃經の文ちりとこへ給ふ
ぬ氏ちりぐーこのさぶせくりぐー禅ぐひすひべき
ここりあをあらぐーぐうんりうのそくのひきー

かうばしてん上の為のうるおすひとをあく
きこうとおもうていたんや世の人をやしなわ
とゝあるひよ樂ゝもちろうるゞゆへさき
ゆうにいたくぶつるうさいるゝ流を海さい
るうきまいぶつ流まうびぶさ眼のよ
ゝなあるのゝひさうれしひきこうるのゝな
らびぶさ命終よのぞむぶつゝとゝもさひ
てらびをみ者靈うれさひうせういよむ
まれ給ちばらくをうけ給りんゝ紀樂なか
くん天まうみてあひみゝしをえ給まさ
ゆゞうあるのゝひとゝえ給べしゆゞゆへ

このせくいゝのうゝのゝうゝとゝあゝびうゝを
のいをゝへのゝゝくゝみてさひごの法給んゞ
みゝさを給りゝうゝあるのりきうれいあるも
ゞくらくの上ゞがんゝしゝやうのゝつゝひゝとゝあ
のゝゝとゝあつゝるちゞいゝゞうあゝあゝまうれ
しゝゞやうのゝの道の師ちゞはゝうゝきみゝ
とのきゝゝくゝゝやせゞゞゝとのゝちゞ給ん
とゝとゝとゝあゝむゝめゝあゝはゝゝうゝのゝ山師ゞみ
のゝちゝきゝうれおゝりゝまゝうゝあゝぶゝあゝくゝのゝう
ちゝくゝむゞゞやゝうゝれゝ法ゝうゝもゝゝきゝべゝきゝゝゝを
もゝゝうゝのゝうゝきゝうゝゝゝ法ゝぜんゝくゝもゝくゝあゝう

とくうめ。ふるうむしどもうのあるを
ぞ。ぞ。ぐ祝うれ得とのこうそし
あとうつ王ふゆくのこくりたり法皇
つとけるりのぞうへこそ雲山童子身い
もうへけめとき人くのこありぞうの
めけりさうのいおどをぞうくみかいひで
を祭へ王どうえきこそめびちりめるこそ
くらいの きもぞそうりのみうあくそあう
つきぐくみぞ一のげうさへきそうちどあつ
まりてぞ行りの世祭てがあにい王て京中
年のりのぞけそ海つてぞぐあきそう

つりうとりにこうにめそこそ海つうさへき
とくこうのへくみが海いるさそこのうくう
へらせ祭てぞうさうにみが祭りまぬちにこ
とまの王にうれしくうつるに忠今内供し
以人とそとうへのみくおほえをれのうに
りうきこうえこうし
きみうあえゆきみうとけるうへのハ
にうれそやしのこうこそす王とうあ
王きるぞ王薬師林の祭くんのうとをよ
みこるあうべしおうこうにのみうこうのハき
きそこそうこいこ海りきとこそう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すゑあやまういのちみしかくおもはるるにこ
のとれもさめ十にあまり給ふらんされどこの
とのもはこころのうちくめてさくおもひて
つまはるやはまてはなまつ給も四二位
うさまえかこんろうまてもちはれ初めて
ありいはるやけはらもくめ世のへいろうお
しくきこゆいろきものくよどのうせ給
めるとしらはうはふへはらはさら
ぎりあくさうはおりつるどのおりひを
ぬうどのはあまさ海てそへもくあはれよ
れしまをしのはあまさ海ちさんどは給と

しをよりてこらはとくこどつさうへさせ給
ゐりつまがとうりはりひきうえさたこの
とのはこはしそへとあへるははこしたせき
この中おごんどのうくらねおりるまりつ
はとりきうえてまとぢちはりうへ上
まもあるまめでるはうせ給このこくぶと
きこ給ておがくはのみくぶうのはりとより。
中こうちまはにきこえ給を
やしへのちちゆをきくまりはいと
どみ給まうさびしうをるまうまはへ
きこえのうはうしはゆきとりうひ

さびしきさうにまとをかりひろげられたるとなんき
こえ給ふるにぞこゝにみやくしのばらあるべし
おきうえさせ給ひたゞ十日のよやがてうれは爰に
いとゝとゝくおうしをかるゝそうれいとあてやう
ふ裏来こうるぐそぬこゝとりてまいりてこ
まとこゝせばいづくにぞとあるべきはゝとのは
ぬこゝとゝせばずるこびてはらんずるたゞ下ふ
下生ふちんあるべしくづるはせうそくるれ
ぐらやのはせんてなりりびぶやなりの給ハ
せをもはゞこのそこうゝぐらもりでも物ふ
ろふしゝとにもさふゝるあとゝとすしはら

むしもれハとのうちさはひうしやうせさせ給
ふるれこそとあゝ道このはさうれしとをよ
ばひるはゝてとあるこれさを給ふさ
給んすれさいこあるこきうぎう物すま
るれいゝゝうゝ道てきうれとあるの給
ゝるる三位のあうゝ中しやうれ念仏をせ
らふすめきこのゝアんのうゝるせて給ふ
ゝうしうはゝてこゝちうのうあはききれ
てゝ下ふとゝふとゝもめべゝとふふと
をうゝをゝこのはふとみしうばゝでゝくのさ
うるあゝとゝあのひゝくゝへうをきうえんてあ

みうしどこのはゆゑんふきてあつひうたちんぱい
とくなのりうちうめべきとぞきうえ給
をるぞまこ二三日ぐらう〇くあいせうそう
づ融禎ゐんどぐはまこうぐはこふめとぐはゐ
ちのまバ融禎のゆゑふれこいの中こいのはは
のぐりのくこはのとはうりぐとううきこね
むのいてざてかううつとりてきてゐのれま
へのはゐくこぐくこたをはづとみてこあたを
つとそのゆゑんちゐこありまくあうえく
りゐみかくうきちもづくじやうれりちどに
ちぐへのとりのありこあゐゆゑんちどこそた

きくとこきてゐうこやうとこきこあこれつとに
ぢうせこ給ちとみえこのぞまりこせ給
しあちこゐはこうのめこもあこゐ
せ給てはゐ今ゐきこうきちもくせこ給くゐ。
くどくのこうもちるくみえこ也給ゐはう
ちどの給こくあはと給ゐりきやうとい
みちく帰依しこてまつこ給を思ハを
むせあんをんこしやうせんちるくみえこ給
てせにちくめでゐこやはこのりとこうん
ちくどのぞりのきやう一切あうこきやうあ
ゐこ給一切とありこ給ひてひこう給

給ひ。ゆゑ
はせ。ゆゑ
この
ゑん
て。
ゆ
う
の
ろ
ま
ま
ま

えて。百ひさうらのぞきまゐらせ候みなめ
しあつめてどのうちよくりりさそまつらせ
給ふ。ふるこうりさきあつひ給ふそうたちに
みなくりもせ給ふのくれまへのはうろをさて
おとらんでくどのさーすくるんあるべきうれ
ばまめてさ〜ゆすーまひおうまえへのはまえ四
十よ年くらふよまされそまつらせ給ふい
といろ〜うゆしうりされくのはりの物を
ひてそゆされしーごこのるひちまろひよう
きとくさへゆしちりさゆさうるまこ乃
はいうこさうゆそうたちぷうんうくとのを

えうしめてそゆうりぷこのものりうてとうんゆ
ちめ受ひうこどうてひしせさ給ふよ
そへ給ふのあまーうおろくしぷまこセ
月くの山編給そうたちひとまうりひき
るさんそうのうしこるとそせさ給ふを
乃そうこうトうの見しれなうりられはすゆまて
めてさ〜とみしさうりふうんの廿八日みうう
ゆんごうらくしうどゆせ給ておまさ〜の
はきやうちどうてりあけさ給ふその山平
うしありさゆうゆふしまもとうふゆへしこの
のはまへゆさ百さふのうんとんをつうりゆ

て返つらせ給ふ心ひろたへそうせ給ふや
うてはかうじよやあけさせ給へきちと
せんふのりのきわうはしてめくらし
もつくうつくしきせさせ給ふこれもこのあ
ひはかりうつくしうはしいそうせ給九月ふ
つはとのつくみかはくたゝ給ふのはうはつは
ひみくはすまり。みやつくさちくこねやう
かつつるたくつるもつくにちと給ふ世中の
十ゝ九ハみかはこうくまいくく線
簡をもひつぶ一場のやけうも線簡給
ふくふぜんしくらくれいちりをもく

て方おゝ年にからぬ。くくハあくくー
くくあみくくもくさくくをくくくやうあきねきせ
小舎人童ひしたゝくやうあきねきせ
くるくくあのうめん中ムうくくくとの
ちんとみかくくく

はらやまあり つまとしくみやの此ことをくハ
しこくぐいぬちうくおりゆきくらまぬ此
ぐうれてとくまもそでくへとくくりんぐどの
おちやりさせ給をぬみようねんやうねん
とのおおりしまるもとくくりんぐくとのはち
みくくくのおすすませ給てぬさうどうひまみ
さくさせりを給給はどせさを給へとそ
させ給まるぬまさいりんのまやの此ことをなん
おりふことあるぬおかりこことろくにれもお
うひきこえさしかぬろゆいぐんぬふちと
そうへもくきこうえさを給まるぬこくれこ

せ給みくくろぐぬ中なごんどのくぬうへもぬどのくう
くまつどの此中なごんどのくぬうへもぬどのくう
くろぐぬみくくろぐぬ産ハおりしくりんぐくぐの
てゆ日ふりありりひきこうえさを給ひまるぬく
くりぬぬやけちゆ一院みようねん中ごう
くりんりくどのつざくくのとのづら中なごん
どのくうへくくゆつどのおぬくぬぬくぬぬくぬてよハ
のひまちぬ世のなれぬのとくふりのぬくへて
きふふつきぬんくみえくくりぬぬくりのぬくへて
えへりのぬ世ちどすへてなりくちぬ道ぬ此
つくさぐいくぐうくひぬづらくにまるぬり

しごとの日やどてものがらみやみなをへら
せ給ふ事なほぐさうきはまりくるあ
ちらしなほぐさうのよりこれをぐと
うてぞおいはしたくらよこそみしぐ。
とあくおまへのれあらこぬせのあらにまさま
うくそおりしまくらひとちひ人とか
らせ給ふあのおつざくつゆつらせ給
て。唯一条二はおりまれ。ぬるせさせ給し
とうつのれてくらのれとはまでとぬきつ
づをきこえんとはくるはどにのまれさうぐう
みくのむまはさせ給しうち。ぬるし道と

えんさせ給ふうつはんをてんし。ゆりんのさハ
までおりしんのそじめうち。實敬のおも
はまでうれはるはどのうあうあそは
よみえんさせ給ふれ。ごんなごんのれおりこも
はあ日でせえんドにくし給けるごんそ
うとをいと海あくとまちてぬぐでおさ
せ給へる。あり是ものくれまにしそやく
りあどみ日ありてぬのくゆなごんよちう給
どに除目ありてぬのくゆなごんよちう給
にく変ぬさ海くみちちあつまちぬよつこ
びゆ年ぐうのあおりぬぬんぬさちうにな

ア[illegible]ひぬ。ぬこ[illegible]やぢ[illegible]ぢうたなごんごの
うん[illegible]きやうれ[illegible]とぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
て。ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ア[illegible]ぐりをぬぞす[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
をこのうん[illegible]きやうのれ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
くてもうきこうん[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
だ。ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
うこうがうく[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
こうふ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
つぎのあり[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
みき[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

の百[illegible]のうん[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ア[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
さ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ら[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
さ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
こ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
う[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
み[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ち[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
た[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]